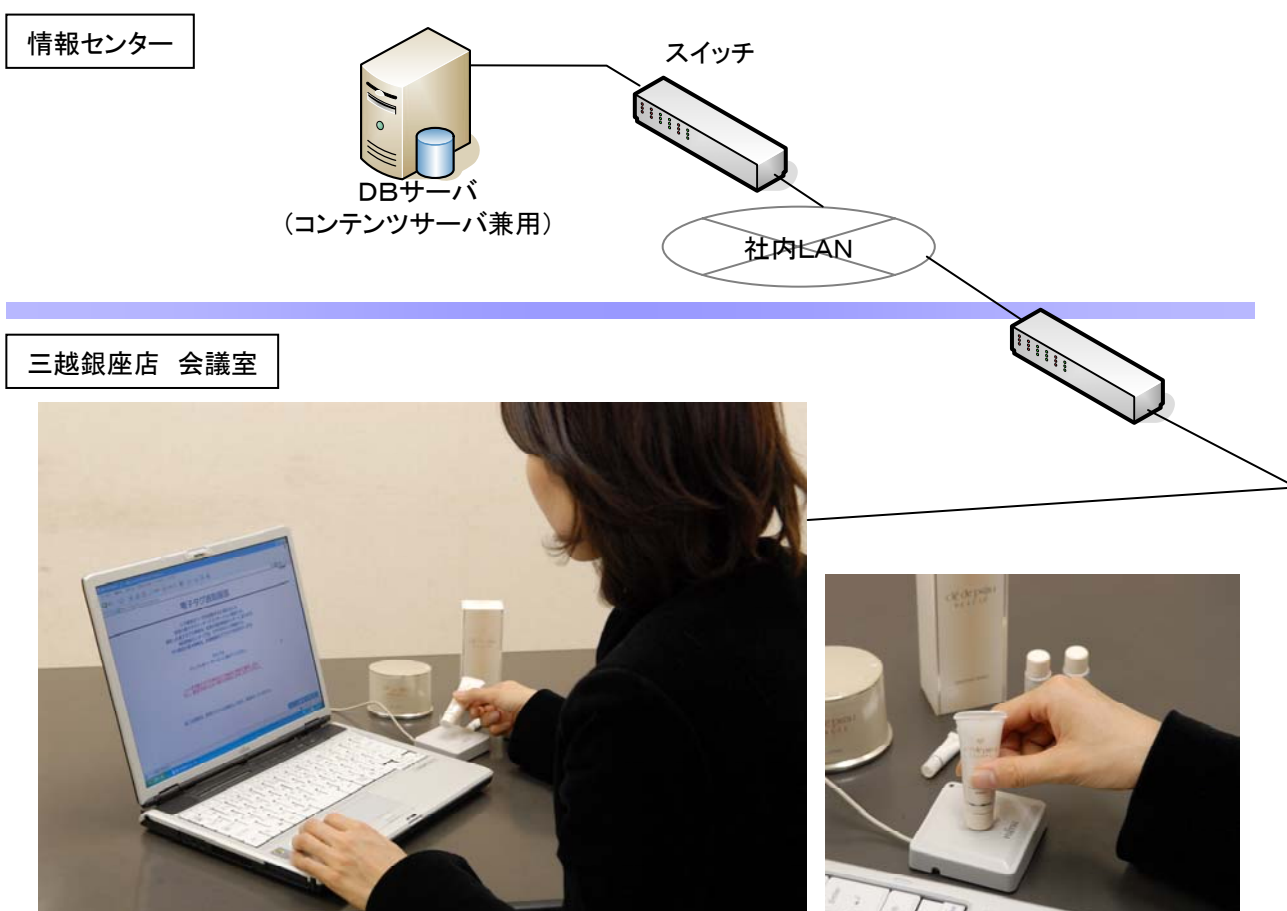


⑤ 電子タグ@ホーム ご説明資料

1. システムの目的

商品やサンプルについての電子タグを、消費者が自宅に持ち帰った場合にどのように活用が広がるか、またその活用について消費者がどのように評価するかについて検証を行うため、仮想的な自宅設定で活用システムを提供する。

2. システム構成

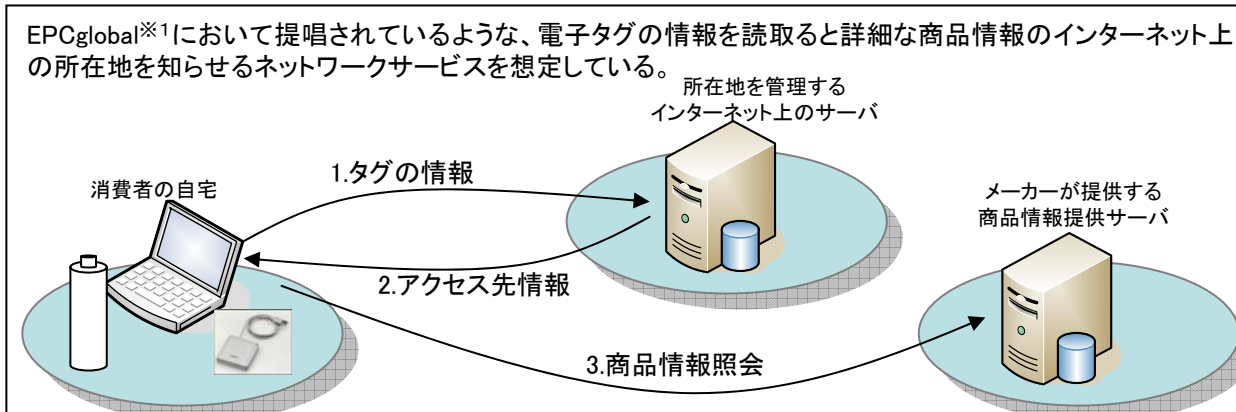


3. システムの特徴

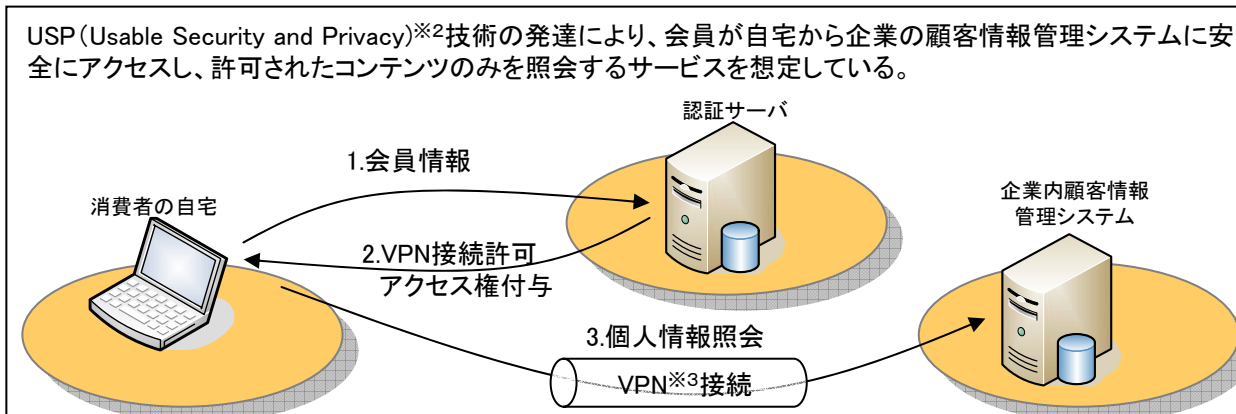
- 電子タグを自宅で活用した場合の、3つのシステム(次ページ①～③)を想定。今回の実験では、実際にそのシステムを構築するのではなく、画面インターフェースをウェブコンテンツ化し、モニターにそのコンテンツを見せ、アンケートを取ることで電子タグの家庭内活用について評価を行う。
- ウェブコンテンツを見せる際には、実際に電子タグのついた商品やサンプルをリーダーに読ませるオペレーションを組み込むことで、実際の利用イメージを強化した。
- 電子タグを使ったオペレーションには、マルチサンプルディスプレイと同じ仕組みを利用し、電子タグについている固有のIDと、そのIDを読んだ時に表示するコンテンツのURLを紐付けることで、電子タグを読むと特定のページに自動遷移するようにした。

4. 想定した活用システム概要

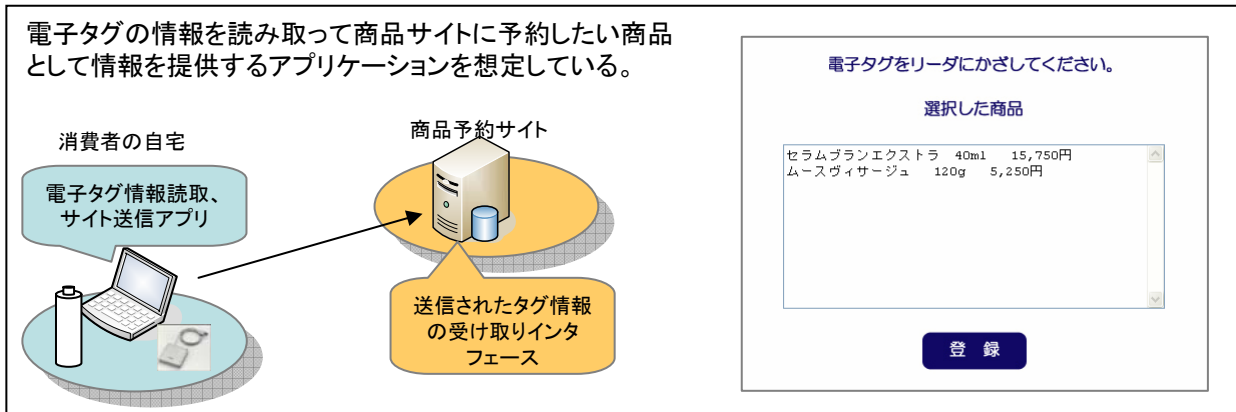
①電子タグの情報から商品情報へアクセスする仕組み



②自宅から企業内システム内に存在する自分のデータにアクセスする仕組み



③自宅で使用している商品についての電子タグを使って商品予約サイトの商品選択をする仕組み



5. 開発企業

富士通株式会社

株式会社富士通四国システムズ

株式会社富士通総研

～電子タグ@ホームコンテンツ作成、機器提供

～アプリケーション開発

～実証実験効果測定

【報道関係のお問合せ先】

富士通株式会社 広報IR室 草島、小川

TEL : 03-6252-2175(直通) FAX : 03-6252-2783

お問合せフォーム : <http://pr.fujitsu.com/jp/news/q.html>

株式会社 三越 広報室 上中 TEL : 03-3274-5338(直通) FAX : 03-3274-6781

注釈)

※1 EPCglobal: EPCglobalとは、EAN.internationalと米UCC(Uniform Code Council)によって設立された非営利法人。EPCglobalは、前身のAuto-IDセンターが開発した商品コード体系をベースにRFIDの技術仕様策定や啓蒙活動などを行ってきた。米国のウォルマートなど流通業を中心に利用されつつある。

※2 USP(Usable Security and Privacy): USBデバイスやICカードを利用してユーザの自宅と企業を安全に繋ぐ技術。

※3 VPN: インターネット上に仮想的なクロードネットワークを構築するための技術。